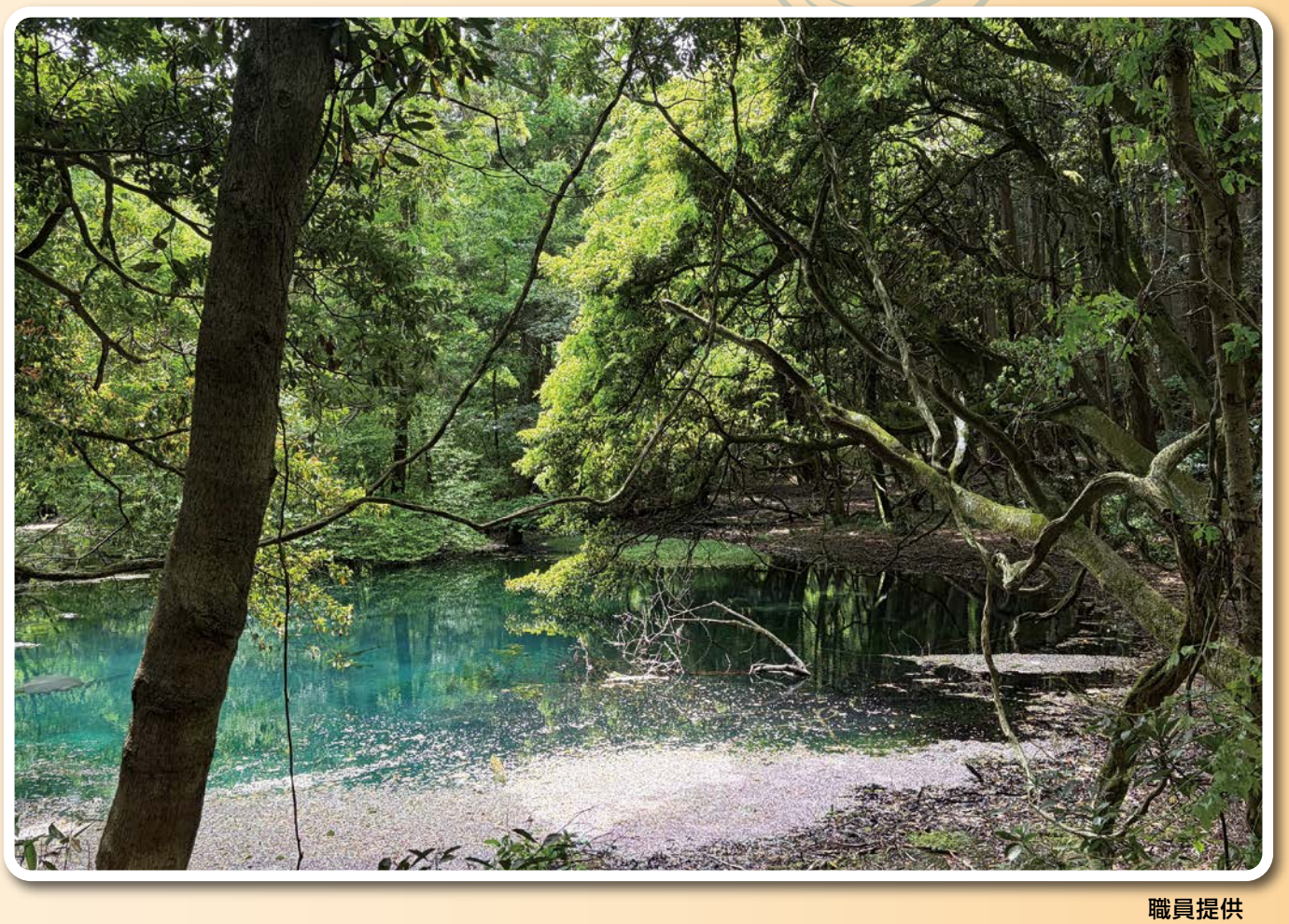
県立中央病院　広報誌

あおやぎ

No.306
2026年8月



職員提供

健康指導シリーズ第14回
骨粗鬆症診療と骨折リエゾンサービス　2 3
放射線新機器紹介　4 5
ロビーコンサート実施案内　5
看護の日イベント報告　6 7
あおやぎ祭り開催案内　7
外来診療案内　8

県立中央病院の理念と方向性

〈理念〉
県民の健康と生命を支える安心と信頼の医療

・患者の権利と意思を尊重し、高度で良質、適正な患者中心の医療を提供します。
・医療従事者としての倫理綱領を守ります。
・最適ながん医療と生活習慣病対策を推進します。
・信頼される救急医療を提供します。
・地域医療、福祉との連携をします。
・将来を担う医療人の教育、育成を行います。
・公共性に配慮した健全な病院経営を目指します。

健康指導シリーズ　第１４回

骨粗鬆症診療と骨折リエゾンサービス

～骨折を防ぎ、自分らしい生活を守るために～

整形外科　骨折リエゾンサービス　根本 信仁

わが国では高齢化が急速に進み、骨粗鬆症はとても身近で重要な病気となっています。骨粗鬆症とは、骨の量が減るだけでなく骨の質も低下し、骨がもろくなって骨折しやすくなる病気です。初期には自覚症状が少ないため、気づかないうちに進行していることも少なくありません。軽い転倒やしりもち、時には日常生活のちょっとした動作でも、骨折することがあります。

特に大腿骨近位部骨折、いわゆる太ももの付け根の骨折は、歩行能力の低下や寝たきり、要介護につながることがある重大な骨折です。骨折をきっかけに、これまで自立していた生活が大きく変わってしまうこともあります。骨粗鬆症は単に「骨が弱くなる病気」ではなく、生存率、健康寿命や生活の質に深く関わる病気です。日本でも介護が必要になった原因として、骨折・転倒は決して少なくありません（図１）。また、台湾の研究では大腿骨近位部骨折の手術後に骨粗鬆症治療を受けた患者さんでは、治療を受けなかった患者さんに比べて死亡リスクが低く、治療継続期間が長いほど生存率が高いことが報告されています（図２）。

2025年には「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」が10年ぶりに改訂されました。近年の骨粗鬆症診療では、骨密度だけでなく、年齢、過去の骨折歴、転倒リスク、持病、内服薬、栄養状態、生活習慣などを総合的に評価し、一人ひとりに合った予防と治療を行うことが重視されています。また治療薬も進歩しており、骨が壊れる働きを抑える薬、骨を作る働きを助ける薬など、患者さんの骨折リスクや全身状態に応じた治療選択が可能になっています。

骨粗鬆症の予防には、食事、運動、日光浴、転倒予防が大切です。カルシウム、ビタミンD、たんぱく質を意識してとること、無理のない範囲で散歩や筋力トレーニング、バランス運動を行うことが、骨や筋肉の維持につながります。また、家の中の段差、滑りやすい床、暗い廊下、合わない履物などを見直すことも、転倒による骨折を防ぐために重要です。

一方で、すでに骨折を起こした方にとって最も大切なのは、「次の骨折を防ぐこと」です。一度骨折を起こした方は、次の骨折を起こす危険性が高くなります。骨折の治療が終わったから安心、ではなく、その後の骨粗鬆症の検査と治療継続が非常に重要です。

この再骨折予防のための取り組みが、骨折リエゾンサービス（FLS)です。FLSでは、医師だけでなく、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、診療放射線技師、医療ソーシャルワーカー、事務職員など多くの職種が協力します。骨折を起こした患者さんに対して、骨密度検査や血液検査、薬物治療、リハビリテーション、栄養指導、転倒予防、退院後の通院継続までをチームで支援します。

当院でも2023年からFLSチームが活動を開始し、多職種によるカンファレンスや院内勉強会を行いな

がら、骨折後の患者さんが適切な骨粗鬆症治療につながる体制づくりを進めています。次の骨折を防ぎ、住み慣れた地域で自分らしい生活を続けて頂くことが、これからの骨粗鬆症診療の大きな目標です。

まとめ

骨粗鬆症診療で大切なのは、骨折を治すだけでなく、骨折を未然に防ぎ、さらに骨折後は次の骨折を防ぐことです。「年齢のせいだから仕方ない」と思わず、身長が縮んだ、背中や腰が曲がってきた、軽いけがで骨折した、過去に骨折したことがある、という方は、まずはかかりつけ医やお近くの医療機関で骨粗鬆症について相談してみることが大切です。骨の健康を守ることは、これからの生活を守ることにつながります。当院では今後も地域の医療機関と連携し、骨粗鬆症診療と再骨折予防に取り組んで参ります。

介護が必要になった主な原因

表 17　現在の要介護度別にみた介護が必要となった主な原因（上位３位）

（単位:%）　　2022(令和４)年

現在の要介護度	第１位		第２位		第３位	
総　数	認知症	16.6	脳血管疾患（脳卒中）	16.1	骨折・転倒	13.9
要支援者	関節疾患	19.3	高齢による衰弱	17.4	骨折・転倒	16.1
要支援１	高齢による衰弱	19.5	関節疾患	18.7	骨折・転倒	12.2
要支援２	関節疾患	19.8	骨折・転倒	19.6	高齢による衰弱	15.5
要介護者	認知症	23.6	脳血管疾患（脳卒中）	19.0	骨折・転倒	13.0
要介護１	認知症	26.4	脳血管疾患（脳卒中）	14.5	骨折・転倒	13.1
要介護２	認知症	23.6	脳血管疾患（脳卒中）	17.5	骨折・転倒	11.0
要介護３	認知症	25.3	脳血管疾患（脳卒中）	19.6	骨折・転倒	12.8
要介護４	脳血管疾患（脳卒中）	28.0	骨折・転倒	18.7	認知症	14.4
要介護５	脳血管疾患（脳卒中）	26.3	認知症	23.1	骨折・転倒	11.3

注：「現在の要介護度」とは、2022(令和４)年６月の要介護度をいう。

厚生労働省 2022年国民生活基礎調査の概況より

図１. 介護が必要になった原因

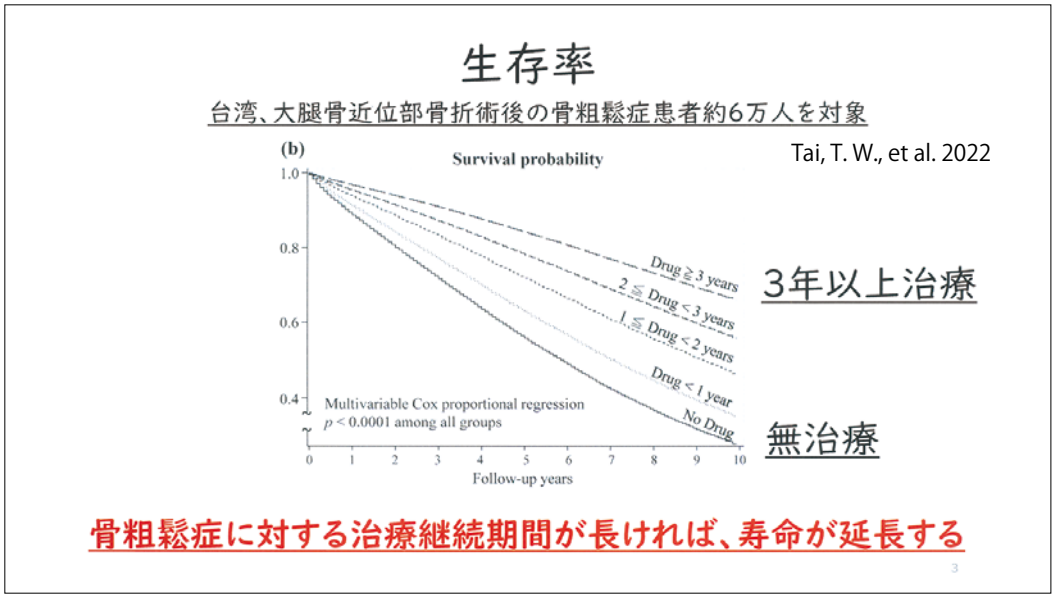


図２. 骨粗鬆症治療と生存率

心血管撮影装置が更新されました

放射線部　大滝 布美子

心筋梗塞や狭心症と言った病気はご存じでしょうか？

特に急性心筋梗塞の患者さんは、心臓を栄養するための血管である冠動脈が急激にプラークや血栓などが詰まり血流がなくなってしまう事で、心筋が壊死に陥った状態となり、強い胸痛で病院に運ばれてきます。

このような方は、ほとんどがカテーテル検査を行い、経皮的冠動脈インターベンション(PCI)といった血流の流れを良くする治療が必要になります。

血管撮影装置は、このカテーテル検査や治療を行うための装置です。

最新血管撮影装置の導入について

当院では、より高度で安全な循環器診療の実現を目的として、フィリップス社製血管撮影装置「Azurion 7 B12/12」を導入しました。本装置は２方向で撮影可能なバイプレーンシステムであり、冠動脈インターベンションをはじめとする高度なカテーテル治療に対応できる環境となっています。循環器領域において、低侵襲かつ迅速な治療へのニーズが高まる中、診断精度の向上と治療の効率化、安全性の確保を支える先進的なシステムとして、日々の診療に活用しています。



高精細フラットパネルディテクタ（FPD）：

微細な血管構造やデバイスの視認性に優れているため、精度の高い診断・治療を支援することができます。

クラリティーIQ：

画像処理技術により低いエックス線量で鮮明な画像を提供できるため、患者さんの被ばく低減になります。また、長時間の検査・治療に携わる医療従事者にとっても重要な要素であり、安全性の向上に寄与することができます。



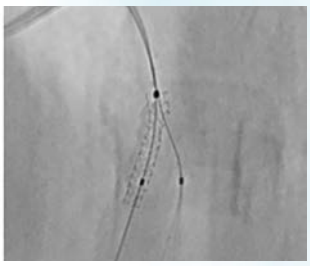


ダイナミック コロナリー ロードマップ：



冠動脈の走行をリアルタイムに透視画像へ重ね合わせて表示できます。静止画ではなく動画として活用できるため、動きのある心臓の血管でもリアルタイムなナビゲーションを期待することができます。

ステント ブースト ライブ：



ステントの視認性を大きく向上させる機能です。表示スピードが速く、リアルタイムに近い形でステントの位置や拡張状態を確認できるため、迅速かつ正確な治療判断を可能にします。

タッチ　スクリーン モデュール プロ：

タッチパネル上の操作は、スマートデバイスのような操作であり、術者やスタッフが必要な画像情報へ迅速にアクセスでき、検査中の確認作業をよりスムーズに行えます。

放射線部では、本装置の導入を通じて循環器医療のさらなる質向上を目指しています。今後も先進医療機器を積極的に活用し、患者さんにより安全で質の高い医療を提供するよう努めてまいります。

ロビーコンサートについて

コロナ禍で休止していたロビーコンサートを令和６年度から再開いたしました。昨年度はたくさんの方々にご出演いただき、計11回のコンサートを開催いたしました。

今年度も様々なジャンルのコンサートの開催を予定しておりますので、日常に音楽の彩りを添えるひとときを、ぜひお楽しみください。ご来場をお待ちしております。

◇ご出演くださる方を募集しております。是非多数ご応募ください。

開催日：原則　毎月第３水曜日　17：15 ～ 18：00※出演者により日時は変更になる場合もあります

場　所：山形県立中央病院　１階ロビー

病院で準備できるもの：マイク３本（ワイヤレス２、有線１）、ワイヤレスアンプ、グランドピアノ１台

その他：①ボランティアで出演いただける方に限ります

②出演月について、ご希望にそえない場合があります

③演目について相談させていただく場合があります



【連絡先】総務課庶務係　　TEL　023-685-2626（内線3117）

「看護の日」を終えて

看護部　自治会会長　佐竹 恵美子

今年の「看護の日」イベントでは、「伸ばそう健康寿命 －今日からできる、小さな習慣づくり－」をテーマに掲げ、食を中心に心身の健康維持に関する取り組みを行いました。内容は塩分量の体験コーナーや、感染予防、塩分制限、糖尿病の間食、心不全、誤嚥予防についてのポスターによる情報発信や、骨密度測定、肌年齢測定を行いました。今年度も面会制限が続く中での開催となりましたが、総務課の協力による院内アナウンスやチラシ配布による呼びかけが奏功し、89名もの方々にご来場いただくことができました。

来場者からは「普段食べている食事の塩分が多いことが分かって良かった」「ポスターが分かりやすく勉強になった」「とてもわかりやすい内容で大変参考になりました」と嬉しい声をいただきました。地域の皆様と直接ふれあえる貴重な機会となりました。

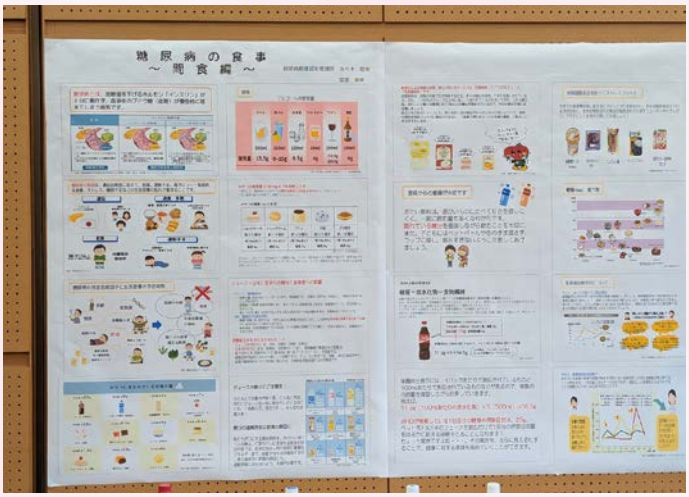
今回の取り組みを通じて、普段の食事バランスの大切さや、誤嚥予防についてお伝えすることができました。来年以降も、より実践的で楽しく、誰にとっても役立つ内容をお届けできるよう努めてまいります。

最後になりますが、本イベントの開催にあたりご協力いただいたすべての部署、関係者の皆様に、改めて心より感謝申し上げます。看護の知識を生かしながら、今後も地域に開かれた病院づくりに貢献していきたいと思います。



食べたいものを選んで塩分量を測定しました

１日の塩分量は６gが推奨されています。今朝食べたメニューや、食べたいメニューを自分で選んでもらい、塩分量を計算しました。１回の食事で 10gも摂取することもあり、参加者が自分の食事を見直す機会となりました。一緒に心不全と塩分についてのポスターを掲示しました。



糖尿病の食事～間食編～のポスターです

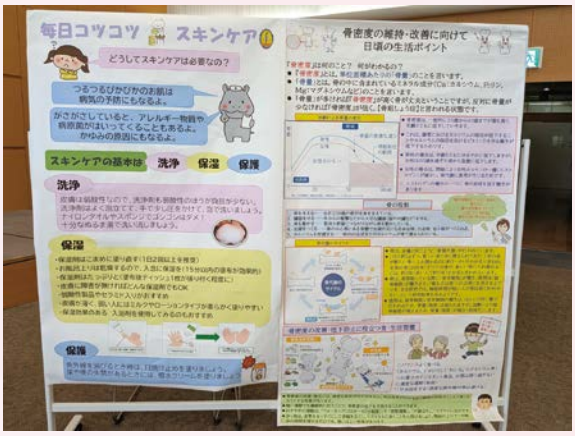
糖尿病についての説明と、生活習慣の予防対策、アルコールやおやつの糖質量などを、わかりやすい内容で掲示しました。ポスターの前には、実際のジュースなどに含まれている砂糖の量を展示し、来場者が改めて砂糖の多さに驚いていました。



感染予防　手洗いと手指消毒についてのポスターです

主な感染経路や菌の生存期間、日常生活における手洗いのタイミング、手洗いの手順をポスターで展示し、来場者に看護師が感染予防について説明しました。手洗いの重要性について再認識する機会となったようです。





毎年好評の骨密度測定と肌年齢測定ポスターです

骨密度測定を目的に来場される方も多く、測定結果に一喜一憂されていました。測定後、隣に掲示したポスターから、骨密度の改善・低下防止に役立つ食・生活習慣の情報を得ていました。肌年齢測定のコーナーでは、スキンケアのサンプルも好評でした。

第8回あおやぎ祭り2026の開催について

あおやぎ祭り実行委員会　大沼 美香

当院において「第８回あおやぎ祭り2026」を開催します。

このお祭りは、 次のことを目的として、今年で８回目の開催となります。

・地域や住民の方々に開かれた病院づくりを推進すること。

・入院されている患者さんの元気づけを図ること。

・より良い職場環境づくりを推進すること。



お祭りでは、ドクターヘリの見学会やロビー会場での演奏や踊りのイベント、各種出店、病院の特性を活かした各種健康チェックや体験コーナーなどを開催する予定です。お誘いあわせの上ぜひお気軽に御来場ください。

【日時】　令和８年９月27日（日）　10時～15時

【場所】　山形県立中央病院　１階総合受付前ロビー、２階講堂　ほか

初来院受付時間／**午前8時～午前11時30分**

外来診療案内

ブロック	診療科	診療曜日 月	火	水	木	金
A	内科	●	●	●	●	●
	呼吸器内科	△	FAX予約のみ	△	△	FAX予約のみ
	血液内科	△	△	△	●	△
	糖尿病・内分泌内科	△	△	●	△	△
	循環器内科	●	●	●	●	●
	消化器内科	●	●	●	●	●
B	整形外科	FAX予約のみ	FAX予約のみ	FAX予約のみ	FAX予約のみ	
	眼科	● 要紹介状	● 要紹介状 10時30分まで	● 要紹介状	● 要紹介状 10時30分まで	● 要紹介状
	歯科口腔外科	FAX予約のみ	FAX予約のみ	FAX予約のみ	FAX予約のみ	FAX予約のみ
C	脳神経外科	●	●	●	●	●
	泌尿器科	FAX予約のみ		FAX予約のみ	FAX予約のみ	FAX予約のみ
	心療内科	△ 再来のみ		△ 再来のみ		△ 再来のみ
	脳神経内科	●	●	△	△	●

ブロック	診療科	診療曜日 月	火	水	木	金
D	産婦人科（産科）	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状
	産婦人科（婦人科）	FAX予約のみ	FAX予約のみ	FAX予約のみ	FAX予約のみ	FAX予約のみ
	頭頸部・耳鼻咽喉科	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状
E	小児科 新生児内科	●	●	●	●	●
	小児外科		● 午後のみ			●
	皮膚科	●	●	●	●	●
	形成外科	●		●		●
F	外科	●	●	●	●	●
	呼吸器外科		FAX予約のみ	△		FAX予約のみ
	乳腺外科	FAX予約のみ	FAX予約のみ	FAX予約のみ		FAX予約のみ
	心臓血管外科		●			●
	緩和医療科	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状	● 要紹介状
放射線科	放射線科	●	●	●	●	●

当院を受診する時は

◎**初めて受診される方**

・総合受付（初来院受付）に**診察申込書**、**問診票**及び**紹介状**（紹介状をお持ちの方）を提出のうえ、受付してください。

・総合窓口受付開始時間までは**番号札をとってお待ちください。**

◎**再来の方**

・予約の有無に関わらず、再来受付機で受付してください。

・再来受付機は、**午前7時30分から**ご利用になれます。

◎**マイナ保険証（保険証利用登録済のマイナンバーカード）または資格確認書のご提示がないと全額自己負担になります。**
マイナ保険証をご利用の際は、カードリーダーの登録操作が必要になります。

◎**「お薬手帳」をお持ちの方はご持参ください。**

紹介型外来について

現在、当院においては、一部診療科の外来診療の初診について、紹介型外来または完全予約制（かかりつけ医からのＦＡＸ予約）による医療提供を実施しております。

● **初めての方・予約の方は受診できます。**
△ **予約のある方のみ受診できます。**
（心療内科：新患は受付しておりません）

要紹介状
眼科、産科、頭頸部・耳鼻咽喉科、緩和医療科

FAX予約のみ
呼吸器内科（火・金）、整形外科、歯科口腔外科、泌尿器科、婦人科、呼吸器外科、乳腺外科

※内科の火曜・金曜日は症状によっては受付をお断りする場合があります。

非紹介患者初診加算料及び再診加算料について

他の保険医療機関からの紹介がなく、直接当院へ来院された患者さんは、初診に係る費用「非紹介患者初診加算料」として7,700円（税込）を頂いております。また、当院から他医療機関（大病院を除く）への紹介の申し出後に、当院を受診した患者さんからは「再診加算料」として、3,300円（税込）を頂いております。ただし、助産にかかる療養費等の場合は、非課税となります。
※緊急入院等の場合は除きます。

・再来患者さんからの電話予約及び予約変更については、患者サポートセンターで受付しております。

・「かかりつけの先生」からのFAX予約も受付しております。

TEL　023-685-2620（午後1時～午後4時）
※電話番号のお掛け間違いにご注意ください。

FAX　023-685-2606
（平日／午前8時30分～午後6時　土曜／午前8時30分～午後2時30分）

発　　行　山形県立中央病院　〒990-2292　山形市大字青柳1800番地
編集部会長　永沢　光　編集　総務課庶務係　TEL 023(685)2626　内線3110
山形県立中央病院ホームページアドレス https://www.ypch.gr.jp/